

# 神戸市

## 神戸市精神障害者地域移行・地域定着推進事業

～退院支援の実践と検証、地域包括ケアシステムづくりへ～

新型コロナウイルス感染症の影響により、従来積み上げてきた活動が十分にできない状況にあるが、積極的に地域移行の活動に取り組んできた支援者の熱意が続き活動が進むように、関係機関と連携を密にして課題を抽出し、感染症対策をふまえながら解決方法を検討していく。

課題への取り組みを効果的に実施していくため、計画的に事業を推進できるよう協力を求めることのできる他機関との調整をしていく。

## 1 県又は政令市・特別区の基礎情報

### 神戸市



#### 取組内容 令和元年度まで

##### 【KOBEピアサポーター育成の取り組み】

- ※KOBEピアサポーターとは、神戸市のピアサポーター養成研修を受講し、神戸市の登録ピアサポーターとして、事業の中で活動する者をさす 令和3年度より、KOBEピアサポーターの名称を使用
- ・ピアサポーター養成研修・支援事業所向け研修
- ・ピアサポーターフォローアップ研修
- ・ピアサポーター活動報告会

##### 【精神障害者の地域移行・地域定着の取り組み】

- ・精神障害者地域移行・地域定着推進事業
- 地域移行・地域定着推進連携会議、検討会等の開催、ピアサポーター活用事業
- ・地域支援機能強化事業：障害者地域生活支援センターに地域支援機能強化専門員を配置し、地域移行に関係するネットワーク構築、地域住民に対する普及・啓発等をおこなう。
- ・神戸市グループホーム整備支援事業
- ・長期入院患者退院支援事業：生活保護法における長期入院患者のうち入院治療の必要性が低い者に対し退院を支援することにより、患者の適正な処遇を確保し、医療扶助の適正な給付を図る。

### 基本情報（都道府県等情報）

#### <基本情報入力シート>

自治体名（記入してください）

神戸市

（※「■網掛け」部分及び「●」部分に半角数字で入力してください）

障害保健福祉圏域数（R3年4月時点）	1	か所
市町村数（R3年4月時点）	政令市	市町村
人口（R3年4月時点）	1,511,393	人
精神科病院の数（R3年4月時点）	14	病院
精神科病床数（R2年4月時点）	3,567	床
入院精神障害者数 （R2年6月30日時点）	合計	2,935 人
	3か月未満（％：構成割合）	750 人 25.6 %
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	555 人 18.9 %
	1年以上（％：構成割合）	1,630 人 55.5 %
	うち65歳未満	646 人
	うち65歳以上	984 人
退院率（R2年6月時点） ※ 2019年6月に医療保護入院で入院した 患者の退院率（精神保健福祉資料より）	入院後3か月時点	70.0 %
	入院後6か月時点	83.6 %
	入院後1年時点	89.7 %
相談支援事業所数 （R3年5月時点）	基幹相談支援センター数	1 か所
	一般相談支援事業所数	38 か所
	特定相談支援事業所数	79 か所
保健所数（R3年4月時点）	1	か所
（自立支援）協議会の開催頻度（R2年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	回/年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	●・無 9区中、2区
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R3年4月時点）	都道府県	●・無 1/1
	障害保健福祉圏域	●・無 /
	市町村	●・無 1/1

## 2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

入院生活

地域生活のはじまり ⇒ 安心でき、安定した地域生活



### 精神障害者地域移行・地域定着推進事業（地域移行・地域定着推進連携会議及び検討会等協議の場）

個別支援体制・地域生活定着支援体制の構築

#### 精神科病院

〈退院支援〉

- ・退院意欲喚起
- ・生活能力の向上（疾病教育、服薬管理、金銭管理等）
- ・地域援助事業者との連携、地域事業所での体験プログラムの活用など
- ・退院後生活環境相談員（法）
- ・入院当初からの医療保護入院者への退院支援
- ・医療保護入院者退院支援委員会の開催
- ・退院支援相談員（診療報酬）
- ・精神療養病棟での退院支援

〈医療機関での地域定着支援〉

- ・定期通院支援（往診や訪問看護の導入・地域支援者との連携）

#### ☆ピアサポーター

KOBEピアサポーターの活用事業

〈退院に向けた支援〉

- ・精神科病院等での患者向け体験談発表活動
- ・入院患者との個別面談、地域移行利用希望者への個別支援
- ・退院後、事業所職員と同行してフォロー訪問
- 〈KOBEピアサポーター養成・スキルアップ研修〉

#### 障害福祉サービス事業所

〈退院支援〉

- ・入院患者の体験プログラムの受け入れ
- 〈地域定着支援〉
- ・サービス提供、医療機関との連携

#### 訪問看護ステーション

- ・精神科訪問看護の提供

#### 精神科クリニック

- ・各区との連携

#### 相談支援事業所

☆KOBEピアサポーターと協働の支援

〈退院に向けた支援〉

- ・地域移行支援サービス提供
- 〈地域定着支援〉
- ・医療機関・関係機関との連携、地域定着支援サービス提供

#### 委託法人（コーディネーター）

- ・地域移行・地域定着推進連携会議（検討会含む）の運営
- ・KOBEピアサポーター活用に係る事業（研修の企画、育成等）
- ・精神科病院向け研修の実施
- ・障害福祉サービス事業所等へのスーパーバイズ
- ・普及啓発

#### 区（精神保健福祉相談員）

- ・障害福祉サービス利用申請受付
- ・本人、支援者からの相談・助言等
- ・精神保健医療に関する相談

#### 区（生活支援課退院支援員）

- ・長期入院患者退院支援
- ・ピアサポーターとの同行支援等

#### 市（精神保健福祉センター・障害者支援課・障害福祉課）

- ・地域移行支援方策の検証（地域移行・地域定着連携会議 自立支援協議会 等）
- ・グループホームなどの施設整備
- ・検証事業の評価（市民福祉調査委員会精神保健福祉専門分科会）
- ・KOBEピアサポーターの登録（神戸市が開催するピアサポーター養成研修を受講後、神戸市に登録を希望する者）

#### 精神科救急医療相談

- ・夜間・休日の急を要する精神保健医療に関する相談

## 2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

### （1）神戸市精神障害者地域移行・地域定着推進事業

- ・地域移行・地域定着推進連携会議の開催 年1回以上
- ・精神障害者地域移行・地域定着推進検討会等（実務者レベルでの具体的な議論）の開催年5回以上
- ・普及啓発（地域住民向け研修会の開催等）
- ・ピアサポートの活用に係る事業（養成、育成、支援）
  - 1) KOBEピアサポーター（神戸市登録ピアサポーター）養成研修、ピアサポーター支援事業所向け研修
  - 2) KOBEピアサポーターによる精神障害者の地域移行に係る事業
    - ①地域生活報告会（体験発表プログラム、病棟内での懇談会）の実施  
入院患者、病院職員への意識付け
    - ②退院支援を希望する者（地域移行・地域定着サービスへつなぐ）への個別支援
  - 3) KOBEピアサポーター活動報告会（ピアサポーターのスキルアップ、実践拡大を目的とする）
- ・啓発ポスターの病棟内での掲示
- ・措置入院者等の退院後の医療等の継続支援
- ・精神科病院を対象とした地域移行推進研修（精神科病院の看護師、PSWを主な対象とする）
- ・地域移行支援に取り組む相談支援事業所の育成（研修・個別支援に伴うスーパーバイズ）
- ・地域包括ケアシステムの構築状況の評価（抽出した課題に対する具体的対応策の検討、障害者支援課との連携）

### （2）精神科救急医療相談＜保健課＞

### （3）地域支援機能強化事業＜障害者支援課＞

### （4）神戸市グループホーム整備支援事業＜障害者支援課＞

### （5）長期入院患者退院支援事業＜保護課＞

### 3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

- 平成16年度から、神戸市モデル事業として「退院促進支援事業」を実施。
- 平成24年度から、障害者自立支援法（現：障害者総合支援法）の一部改正により、精神科病院の入院患者に対する個別支援が、「地域相談支援、地域移行」として個別給付化されたため、「精神障害者地域移行推進事業」としてピアサポーターの養成・活動支援を中心とした事業に見直した。地域移行推進連携事業協議会・研修会の実施やピアサポーターの活用による、病院内での入院患者に向けた発表活動や個別支援活動を実施。同時にピアサポーター養成研修も行う。
- 平成28年度：「長期入院精神障害者地域移行総合的推進体制検証事業」を受け、市内で地域移行・地域定着推進のリーダーシップを取れる2法人に業務委託して事業を進めた。関係機関を集めての連携会議、関係機関による検討会の実施により課題への対策の検討を実施した。以後、同2法人へ委託を継続中。
- 平成29年度：「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業」として、地域包括ケアシステムづくりを目指し、検討会を軸に事業を実施した。
- 平成30年度：事業の取組みを神戸市の関係機関に広く周知し、より一層推進が図れるよう、『連携の輪を広げる』というスローガンで検討会を活用しながら市内の関係機関との連携強化を目指した。
- 令和元年度：病院から依頼の地域移行支援サービス利用者が増加し、地域移行支援の意識が高まってきた。数値目標を掲げ『実行』を意識して、さらに関係機関に働きかけた。また、地域の実情を把握するため各障害者地域生活支援センターを訪問し、地域の課題の抽出、整理を行った。
- 令和2年度：『検証と評価、そして実践へ』をスローガンとした。新型コロナウイルスの影響もある中、関係者1人1人の取組への熱意が続くように、課題の抽出と対応策の検討の場を設け、検討した内容の実施を目標に取り組んだ。

## 4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

## ＜令和2年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R2年度当初)	実績値 (R2年度末)	具体的な成果・効果
①地域移行・地域定着支援の個別支援 (ピアサポーター活用事業)	個別支援可能なピアサポーターを現在の6名から7名に増やし、ピアサポーターと協働の退院支援をする	2年度に個別支援に係ったピアサポーター 5名	コロナ禍の状況の中で、精神科病院の病棟へ入り、地域移行支援を行うことが難しく、病院からの地域移行の相談数も(退院支援を必要とする患者の紹介)少なく、通常の支援ができなかった。その中で、リモートでつながり、ピアの体験発表や意見交流できた病院もある。入院者9人に対して、ピアサポーターが関わり、7人の退院支援ができた。 退院支援を必要とする人に対してのピアサポーターを活用した取り組みは進んでいる。
②ピアサポーターの活用状況に関わる相談支援事業所数を増やす	地域移行サービスに取り組む一般相談支援事業所を8事業所に増やす	2年度に地域移行に取り組んだ相談支援事業所は、6事業所	地域移行支援サービスの対象となる患者も少なかった。地域移行に取り組む知識・実績を持った相談支援事業所が毎年継続して、地域移行に取り組む状況にはない現状がある(毎年の実績がない)ので、継続した意識づけが必要である。相談支援事業所を集めての学習会では、ピアサポーターの活用事業に対する質問・意見も活発に出ており、地域移行の事業に関する関心は高くなっている。

## 5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

### 【特徴(強み)】

- 地域の病院や事業所等、関係機関の顔の見える関係が構築されている。  
会議や研修会を通して精神科病院の地域移行への意識が高まってきており、地域移行支援サービス利用者が増えている。  
検討会を開催することで、課題解決に向けて具体的な議論ができる。
- KOBEピアサポーターと相談事業所が連携した活動が増えてきている。
- 病院でのKOBEピアサポーターの活躍の場も増えている。コロナ渦で病院に入れない中、リモートでの発表活動や個別支援の協力を得られる病院がある。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
地域移行支援サービスの利用希望者数に対し、その対応ができる相談支援事業所が少ない。	相談支援事業所に地域移行支援の必要性とその対応の流れを伝え、実践を促す取組と、実施へのスーパーバイズを個別に行い、フォローアップしていく。	行政	相談支援事業所を管轄する障害者支援課と協議。個別のスーパーバイズ。
		医療	病院内での対象者の選定。職員の意識を高める研修を企画、実施する。
		福祉	積極的に地域移行・地域定着に取り組む。
		その他関係機関・住民等	
地域移行とその後の地域定着まで取り組むKOBEピアサポーターと、協働で支援する相談支援事業所が少ない。	KOBEピアサポーターの活動について整理をし、ピアサポーターが効果的に活動できるようにする。KOBEピアサポーターの活用事業により、地域移行・地域定着支援に関わる相談支援事業所を増やしていく。関わったことのない事業所で、関心のある事業所を研修等を通して、協力を得ていく。	行政	ピアサポーター及び事業所を養成・育成・支援する。仕組みづくりを行う。
		医療	病院内スタッフ、患者への働きかけを行う。新たなピアサポーターを養成できるよう、関わりのある患者にアプローチする(DCプログラム等)。
		福祉	地域移行・定着の取り組みを検討、実施する。
		その他関係機関・住民等	

課題解決の達成度を測る指標	現状値(今年度当初)	目標値(令和3年度末)	見込んでいる成果・効果
①相談支援事業所数	地域移行支援サービスに取り組む一般相談支援事業所数 6か所	地域移行支援サービスに取り組む一般相談支援事業所数 8か所	相談支援事業所に対して、受託法人がスーパーバイズに取り組み支援事業所を増やし、退院支援の個別支援者数を増やす。
②ピアサポーターの活用による退院支援の状況	個別支援可能なピア4人	個別支援可能なピア7人	KOBEピアサポーターの活動により、地域移行支援におけるピアサポーターの有用性への理解が進み、退院可能な患者が増える。

## 6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
【関係者による協議の場】 6月	関係部局との会議	障害者支援課と精神保健福祉センター(地域移行・地域定着推進事業受託法人含む)で、地域移行・地域定着支援に係る現状把握と、今後の協力、役割分担等について協議する。
8月6日	第1回地域移行・地域定着推進検討会	検討会メンバーで集まり、課題について意見交換、解決方法、実行できることについて検討。
10月12日	第2回地域移行・地域定着推進検討会	事例の活用等により、活動のスキルアップを図る。神戸市としての課題を整理する。
11月16日	第3回地域移行・地域定着推進検討会	KOBEピアサポーターの活用事業について、活用方法、実際の活動の効果について検討する。
3月18日	地域移行・地域定着推進連携会議	今年度の成果と課題、来年度の取り組みの方向性を関係機関と共有し、それぞれの立場でできることを見出す。
【ピアサポーターの活用】 8月27日	KOBEピアサポーター活用事業関連研修	相談支援事業所向け研修を行い、ピアサポーター活用事業による退院支援の促しと協力を得る。
9月24日、10月初め	KOBEピアサポーター養成研修(2日間)	KOBEピアサポーターを養成し、地域移行・地域定着のためにピアサポーター活用事業で活動できる人を養成する。支援事業所も同時に研修を受講してもらい、ピアサポーターの養成・活動の理解を深め、実際の活動につなげる。共に学ぶ場を持つことで、ピアサポーターの意識を高め、資質向上と日々の活動のスキルアップを目指す。
1月21日	KOBEピアサポーターフォローアップ研修	
毎月実施	KOBEピアサポーター報告会	活動中のKOBEピアサポーターとそれを支える事業所が、ピアサポート活動の報告・交流・研鑽を行う。活動の共有、スキルアップのための学習会等
【その他研修等】 未定	地域への普及啓発活動	民生委員を対象にした研修会等、精神障害者が地域で暮らすことの理解を深める。障害者相談支援センターとの連携による、地域での研修会を開催する。
随時実施	相談支援事業所へのスーパーバイズ	地域移行支援に携わる相談支援事業所の困りごとを聞き、適宜対応する。
未定	病院向け、地域移行・地域定着推進事業の実施に関する調整会議	推進事業で作成した研修資料をもとに地域移行支援の流れや関係機関との連携などについて講義をし理解を深める。
12月	病院への訪問 精神科病院向け研修(適宜)	精神科病床を持つ病院14か所の内、精神科身体合併症病棟、認知症専門病院を除く、12病院へ訪問し地域移行について説明、協力依頼をする。

## 7 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の特別に考える必要がある事項について

考えられる事項	想定される次期 (方向性判断の必要性が 考えられる次期)	実施する内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議・研修等の開催をしてもコロナ感染予防の為、集まりにくい</li> <li>・精神科病院がコロナ対策のため、病院訪問の制限を行うなど、患者への積極的な退院支援が困難な場合</li> <li>・神戸市の中での、保健、福祉等部署による業務の役割分担があることにより地域の機関での連携を難しくしている現状もあり、神戸市全体として取り組めるようにすることが必要</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインでの開催に向けて設備の調整と関係者にZOOM等の活用方法を周知</li> <li>・市内全精神科病院を訪問し、支援状況の聞き取りを行い、当事業を活用した退院支援の可能性を模索し、退院支援の実施を目指す。</li> <li>・精神保健福祉センターと障害者支援課の役割を再確認し、協働で取り組めること、各々でできる取り組みを確認する。</li> </ul>